キャラクター名
若狭 玄壱（わかさ くろいつ）

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス ハヌマーン	ワークス	FHチルドレンB	カヴァー	FHチルドレンB
オプショナル		年齢	17歳	性別	♂
覚醒	忘却	衝動	自傷	初期侵食率	33 %
出自	犯罪者の子	経験	悲恋	邂逅	欲望：逃避

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2		0			2
感覚	3	1	0			4
精神	1		0			1
社会	2		0			2

HP	25
行動値	9
(非装備時)	9
戦闘移動	14
全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	2		ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報： FH	2	
運転：			芸術：			知識：			情報： 噂話	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ソニックブリッツ	射撃	4r+2	ー	5		ドッジダイスー1個
		0				
望む痕<ホープハート>	射撃	4r+10		5+9		侵蝕9。攻撃14+2D10、ドッジダイスー1個
└(バフ有り)	射撃	9r+19		5+9		侵蝕4+9。攻撃14+2D10、ドッジダイスー1個

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
CR弾	
FH幹部	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
強化兵<バーサーカー>	P	N		
想い人	P 執着	N 偏愛		
"マステマ"	P 有為	N 疎外感		
シナリオ："シュモット"	P 有為	N 猜疑心		
リズ	P 執着	N 隔意		
苗ヶ瀬伊佯	P 好奇心	N 疎外感		
	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P： 3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
ソニックブリッツ(5)	1	4	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	ー	
効果： 射撃武器作成。攻撃力+[LV+4]、ドッジダイスー1個								
コンセントレイト：モルフェウス(3)	3	2	ﾒｼﾞｬｰ	ー	ー	ー	ー	
効果： C値をーLV								
ブルータルウェポン(3)	3	4	ﾒｼﾞｬｰ	武器	ー	対決	ー	
効果： 攻撃力＋[LV*3]、暴走していない場合はダイスー2個								
居合い(5)	4	3	ﾒ/ﾘ	ー	ー	ー	ー	
効果： 組み合わせた判定の達成値＋[LV*2]、ラウンド1回								
援護の風(5)	5	2	ｵｰﾄ	視界	単体	自動	ー	
効果： 判定直前に使用。ダイス＋LV個。ラウンド1回								
ウインドブレス(3)	3	2	ｵｰﾄ	視界	単体	自動	ﾘﾐｯﾄ	
効果： 前提：《援護の風》達成値＋[LV*3]								
無音の空間	1	ー	ﾒｼﾞｬｰ	視界	単体	自動	ー	
効果： 自らの気配を完全に消し去る（必要であれば〈RC〉判定）								
軽功	1	ー	常時	至近	自身	自動	ー	
効果： すさまじく身軽								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「全部忘れられたら、どれだけ幸せかなって」
「忘れてしまいたくて全部捨てたのに、なんでまだ残ってるんだろ。俺の命」

俺／お前。あんた。ぶっきらぼう、というか元気がない。
色々なことを忘れたくて忘れたくて必死になっているのに、忘れることができない。

全てを終わらせたいとぼんやりと考えていた頃、同級生に自殺を持ち掛けられる。
どうして分かったのだろうと思いながらも、「一緒に」という言葉に心惹かれ頷いた。
しかし気付けば自分は生きていた。
彼らはどうしたのだろう？と思わないこともない。
けど、生きていた時のことを忘れたくて忘れたくて堪らないから、忘れていることにしている。

セルのこと、マステマのことは嫌いではない。自分に居場所と、一応の存在意義をくれるから。
でもマステマは「愛して」はくれないから、俺はまだ死を望んだまま。

熱心な宗教家である両親の元に生まれ育てられる。
両親は子を大事に育てた……とは言うものの、その実態は効果の怪しい呪いに晒され続けていた。
当人達はそれが子の幸せであると本気で信じ、本気で実戦してきた。
子も彼らの幸せの糧になれるならと、それを信じて笑い続けてきた。
が、とある日、彼らの妄信していた教祖が、信者の数名を生贄と称して惨殺。
殺害に加担していた両親も含め、信者の多数が逮捕されることになる。